



歴史を見守る 南海随一の優姿

天守と追手門を同時に見上げるアングルは
名城に相応しい姿を見せる。

高知城は、土佐漆喰の白壁と瓦葺の灰色が鷹の羽に似ていることから「鷹城」と呼ばれ、その優美な姿からも南海随一の名城と謳われる。独立式望楼型の天守は外観四重六階の構造をもち、総塗籠の白壁で大型の千鳥破風や、最上階に高欄と廻縁をもった古式な美しさを見せる。

慶長六年（一六〇二）、土佐藩初代藩主山内一豊によって創建されて以来、四百年余りの歴史を有する高知城。江戸時代に築かれた天守が残る現存天守十二城のひとつであり、本丸御殿や追手門など十五棟が重要文化財に指定されている貴重な歴史的資源である。

山内一豊の威信 名城「鷹城」

高知県高知市丸ノ内



土佐藩初代藩主・山内一豊の像

高知城の石垣は一部を除いて、安土桃山時代に近江を中心に活躍した石工集団・穴太衆により、自然石をそのまま積み上げる野面積みという方法で造られている。石の形に統一性がなく、石同士が噛み合っていないため見かけは雑に見えるが、排水性に優れており頑丈な築き方だという。

また、雨の多い高知ならではの対策として石樋や、水切りを設けた城壁など、排水のための様々な工夫が見られる。石樋は石垣の中に泥水が入り込んで石垣を脆くしないよう、一箇所に水を溜めて排水するためのもの。排水するだけではなく、簡単に掃除ができるような工夫もされているようだ。こうした人々の知恵と工夫、そして高い技術力によって、高知城は戦火や自然災害などいくつもの困難を乗り越えてきたのである。

敷地内には初代藩主・山内一豊の像のほかに、妻・千代の像もある。司馬遼太郎の歴史小説「功名が辻」で一躍その名が知られた一豊と千代。同名のNHK大河ドラマを記憶している方も多いただろう。一豊は秀吉、家康に仕え、最後には土佐二十四万石の大名に出世したが、その影には、千代の内助の功があったといわれている。

こんな逸話がある。あるとき、一豊は一匹の馬に目を奪われた。武士としては名馬を手に入れ、戦場で活躍するのが出世の道。しかし、高価なためとても手が届かなかった。これを知った千代は、嫁入り時の持参金、いわばへそくり十兩で早速この馬を買求めた。信長が城下で馬揃えを行った際、この名馬が目止まりそれが出世の糸口になったという。真偽については諸説あるようだが、千代に関して他にも、貧しい時代に枳の裏を



城内にある千代と馬の像。高価な名馬を購入するため、持参金を差し出したという有名な逸話がモチーフとなっている。

まな板代わりにしたとか、自らの黒髪を売って家計の足しにしたなど、一豊を献身的に支えたエピソードにも事欠かない。

また、関ヶ原の戦いの前、千代は大坂で人質として石田三成の監視下に置かれていた。その際に豊臣方の様子と、「自分はどくなつても良いから家康に忠義を尽くしなさい」という内容の手紙を、こより状にして笠の緒に隠して一豊に送ったという。この「笠の緒の密書」の逸話は、千代の冷静な分析と行動力を伝えるものとして今もなお語り継がれている。土佐藩主という大出世は、まさに夫婦二人で成し遂げたものといえる。

高知城を楽しんだ後は、二〇二七年にオープンした「高知城歴史博物館」を訪れた。外壁の菱形の幾何学模様ที่สวยงาม、モダンな雰囲気館内に、国宝や重要文化財を含む六万点以上におよぶ山内家伝来の貴重な資料や、土佐藩、高知県ゆかりの歴史資料が収蔵されている。この展示物のほとんどが、江戸時代から伝わる本物の資料や美術工芸品。複製にはない本物ならではの迫力や美しさは必見だ。

山内家には、動植物などをかたどった奇抜なデザインの兜が多くあるが、四代藩主のもとと伝わる兜は、うさぎの耳の形をしている。この「変わり兜」も注目

の資料のひとつ。このような展示資料は定期的に入れ替わり、季節にそった多様な企画展や催し物も開催しているのので、訪れるたびに新たな魅力を体感できる。

また、スマートフォンやタブレットを利用した音声案内サービスもある。音声ガイドは多言語に対応しているが、土佐弁版もあるというから面白い。

最上階にあるのは、追手門から天守まで一望できる展望ロビー。現存天守と追手門が一枚の写真に収まることは全国的にも珍しく、人気の撮影スポットとなっている。

明治を迎え廃城令が出るまで、高知城は土佐藩の象徴として高知を守ってきた。十五代藩主・山内容堂は幕府と朝廷の融和を目指し、將軍・徳川慶喜に大政奉還を建白、これにより武家による時代は幕を下ろす。また、土佐出身者からは坂本龍馬をはじめ、藩の枠組みを超えて活躍する多くの志士を輩出した。



(1) 雨の多い土地柄を考慮し、崩れにくく排水能力の高い野面積みが採用されている。(2) 天守には防御のための「石落とし」と「忍び返し」の鉄剣が設けられている。(3) 石樋を突出させ、石垣に直接排水が当たらないようにしている。(4) うさぎの耳の形をモチーフにした「変わり兜」

1	2
3	4

国指定重要文化財 高知城



●観覧料/
高知城天守・懐徳館・東多門・廊下門のご観覧
個人(18歳以上) 420円
団体(20名以上) 340円
18歳未満は無料(学生証等をご提示ください)

●開館時間/
9:00~17:00(最終入館16:30まで)
※ゴールデンウィークやよさこい祭期間中などは開館時間を延長することがあります。

●休館日/12月26日~12月31日

高知県立 高知城歴史博物館



●休館日/12月26日~12月31日

●観覧料/
高知城歴史博物館のみ観覧
企画展開催中 個人(18歳以上) 700円
団体(20名以上) 560円
企画展開催なし 個人(18歳以上) 500円
団体(20名以上) 400円

高知城歴史博物館・高知城をセットでご観覧(セット券)
企画展開催中 個人(18歳以上) 900円
企画展開催なし 個人(18歳以上) 740円

●開館時間/9:00~18:00(日曜日は8:00~18:00)
※展示室への入室は閉館の30分前まで



おみやげ omiyage



高知城歴史博物館で販売されているポチ袋。

高知の地酒で一杯!

お立ち寄りSPOT

JAファーマーズマーケット とさのさと

高知産にこだわった、農産・畜産物を豊富に品揃え。生産者の顔が見える、楽しく安心できる直売所です。

とさのさとアグリコレット AGRI COLLETTO

レストラン、セレクトショップ、テイクアウト専門店が出揃い、高知ならではの「食」を楽しめます。

ヒト・モノ・コトが つながる・広がる・出会う

